

首都をうめつくし、調印を實力阻止せよ

「72年沖繩返還」政策粉碎・沖繩奪還

5・30全国から 明治公園に総結集せよ

反戦青年委員会(藤原慶久)
全学連(金山克己)
反戦高協

沖繩「返還協定」調印が、六月一日、首相官邸で佐藤首相の出席の下、米マイヤー大使と愛知外相によってなされることとなった。万難を排し、「返還協定」粉碎のため調印を實力で阻止せよ——全ての労働者・学生・市民の課題はこのひとつに絞られなければならない。

5・19 沖繩ゼネストに続け

五月十九日、沖繩県民の怒りが爆発した。百万県民は、「返還協定」粉碎のただ一点で決起し、その全産業をストップさせ、米軍基地機能の完全マヒに迫込み、日思会など右翼反革命のテロ襲撃をも粉碎して全県ゼネストを実現。さらに軍用一号線道路を二十万のデモで埋めつくし、米軍支配の象徴、米民政府を包囲し、基地に突入した。
同日、本土では、沖繩ゼネストと呼応し、東京で、京都で、白ヘル部隊を先頭に学生・労働者・市民が、機動隊と激突して闘われた。
だが、この五・一九ゼネストこそ戦後二十六年にわたる分断と抑圧から、沖繩を自らのものにとりもどし、アジア再侵略を拒否する歴史選択が、沖繩から開始されたことを告げる早鐘に他ならない。
五・一九ゼネストに続き、「返還協定」調印を阻止せよ。突破口は切り開かれたのだ。

「返還協定」こそアジア侵略の新安保条約

沖繩「返還協定」をめぐる事態は日々鮮明となっている。「核ぬき・本土なみ」というかつての宣伝文句はとうのむかしに置き去られ、「返還」してやるから基地を認めよ、特殊部隊を認めよ、土地は提供せよ、本土の法律に従え……と公然と開きなおし、逆に憚喝をかけてきている。まさしく「返還協定」こそ、沖繩基地を再編・強化し、自衛隊の派兵によって、沖繩をアジア侵略に向っての米帝との共同基地にし、しかもその国民的承認を押しつけんとする、新安保条約そのものに他ならない。

全ての力を「返還協定」調印實力阻止へ

六月一日、首相官邸でこの日帝のアジア侵略に向けた新安保「返還協定」が調印されるようとしているとき、われわれは何をなすべきなのか、アジア侵略への追従か、それとも「返還協定」粉碎・調印阻止か。結論は鮮明である。
沖繩県民は一切合財をなげすんで「返還協定」粉碎に決起した。だが、「返還協定」の調印こそ首都のわれわれの目の前でなされるのだ。
五・三〇全国から明治公園に総結集し、東京を調印阻止の人波で埋めつくそう。調印を實力で阻止せよ。断じて許すな。

五・三〇沖繩「返還協定」粉碎・ 調印實力阻止全国総決起集会

日時 五月三〇日 午後一時集合 二時開会

場所 明治公園 (国電千駄谷駅下車)

主催 全国県反戦 全国全共闘連合 東京入管闘 全国反軍行動委など